

行動タイプ

- ・ 高度の緊張持続（緊張解消も早い）
- ・ 生理状態を意思でコントロールする
- ・ 飲食は必要性
- ・ 支配と服従の価値観（優勝劣敗の努力主義）
- ・ 自己とその他の二元的対立の捉え方

活動・努力至上主義。人や社会に対する、対立意識や競争的感情が強い。活動＝努力 → 勝利（＝力・地位・秩序）という価値観を持つ。活動を爽快に感じる生理性を持ち、活動において心理的安定が得られる。体を動かしていないと（何もしていないということになる）、社会から遅れ脱落しつつあるように感じる。このタイプは無為を罪惡にも似たうしろめたさに感じる。この絶え間ない活動性は、自己の存在価値を発揮する為に、その時その時、次々と起き続ける「必要性」による。その都度、刻々の必要性が行動の目標で基準である。その必要性の多さに対応するための「思い立ったが吉日、当たって砕けろ、失敗したらやり直せ」なのである。

このタイプの人や環境への分析は、情緒タイプほど主観性が濃くなく環境に対する分析も行き届いてはいるが、それはあくまで自己の必要性の枠に限定される。その都度の必要度内での観察・洞察なので、一個人としての心情の洞察は情緒タイプの方がはるかに深く、総合的な環境分析は知性タイプの方がより適確である。行動タイプは総合的な自己観・対人観を持ち得ない。周囲からはこのタイプの人生は厳しく、迫力があり、痛快に見える。人の心理よりも立場を重視する。

情緒的行動タイプ（沐浴・病） 熱戦的戦闘

個人としての行動の一貫よりも対者との調和の重きをおく。情緒タイプのように相手との関連の中に自分を見出し、社会よりも固定した誰かのために活動している。そこに支配・服従的な秩序は働いてはいるがこのタイプは「支配即ち庇護」の精神を持つ。人に欺かれた時の感情は、自己を滅ぼしてでも相手をやっつける域に達する。

知性的行動タイプ（死・長生） 冷戦的戦闘

沐浴・病に比べ孤立的である。人を社会でそれぞれの意味を持って存在している個人として認めており、ただ自分と相手の利益が一致した時に、支配服従の関係や一時的な期待を生じる。個人としての行動の統一性、一貫性、合理性。人はそれぞれの立場で自分の本分を尽くせばいいと誰をも平均的に眺めている。他者に期待するのはいけないことだと思っており、他人への期待も、「ために」の自己犠牲の精神もない。情緒性が少ない為、激しい感情で自分を見失うことが少ない。

開放タイプ・外側（沐浴・死）

自分を語るのに得意でまとまった自己観がある。自己顕示的。自分の必要性を主張し、結論を明確に打ち出すが、それが相手にどんな効果をもたらし、どう批判されるかを顧慮しないために揚げ足を取られ易い。自分をありのままに表現することが最も正しいと信じている。心に思っているのに言わないことは、他人の悪評を気遣う卑怯さから来ていると信じきっている。逆にいえば他人からの悪評に耐えうる明るい自信を持っている。

内閉タイプ・内側（病・長生）

開放タイプに比べ、人を洞察することに長じる。本音の自分を語らない。語れる統一したまとまった自己観がない。情緒タイプの内閉（衰・墓）よりは、表面上は自己顕示的である。しかも、自分の奥底を露わにすることは危険極まりないと思っているので、いつも説明抜きの、抜き打ちみたいな行動や結論になる。自分に不利益な主張は控えるが、これは本来の行動タイプの率直で生一本な行動性と矛盾する。その代わり相手の感情の方向や心理の結論をいち早く見抜く。